

# ストラテジストの眼

## 日本株見通し ～2024年末、日経平均4万円への道～

- 「日経平均4万円」は突拍子な数字ではありません。日本企業が本当に本気になれば達成できる水準です。史上最高値に拘る気持ちはわかりますが、日経平均だけが高値で跳ね返されてしまう必然性は乏しいと見ています。
- 「日経平均4万円への道」は必ずしも一直線ではないかもしれませんが、それでも、過度に盛り上がり、過度に盛り下がらず、割安なときに投資すれば、中期的に報われると考えます。

### 1. 「日経平均4万円」は突拍子な数字ではない

2012年以降のTOPIXの予想PBRは1.4倍が壁になり、何度も何度も跳ね返されてきました。仮にその壁が破られ、PBRが1.5倍に上昇したらどうなるのでしょうか？ 足元の予想BPS(約1,895ポイント)に1.5倍のPBRをかけると約2,840ptsになります。それに足元のNT倍率(約14倍)をかけた日経平均はほぼ4万円になります。「日経平均4万円」と聞くと違和感を持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、突拍子もない数字ではなさそうです。ちなみにROEはプラスの数値が予想されることから、1年後の予想BPSの水準は今よりも高いでしょう。

1.4倍の壁を突破することは、決して簡単ではありません。長期間にわたって、TOPIXの予想ROEは9%前後でずっと揉み合ってきました。壁の突破には、予想ROEが切り上がることが必要です。

ただ、ROEの上昇に向けて、日本企業は少しずつですが動き出したように見受けられます。生命保険協会の調査によると、日本企業のROE目標値は2021年度を底として反転上昇に転じています。この動きが途切れなければ、市場参加者は向こう1-2年をかけて確信度を高めていき、予想ROEは上放れ、PBRは1.5倍に向かって上昇していくでしょう。PBRの壁が破れることで、日経平均は4万円に到達します。その意味において、注目すべきは国内政治や為替動向などではなく、「企業が本当に本気を出そうとしているのか」です。

「日経平均4万円超え」に対する反論は、史上最高値(38,915円)への拘りから来ているように感じます。ただ、東証プライム市場の時価総額は順調に増加中であり、日経平均だけが高値で跳ね返される必然性は乏しいと見ています。

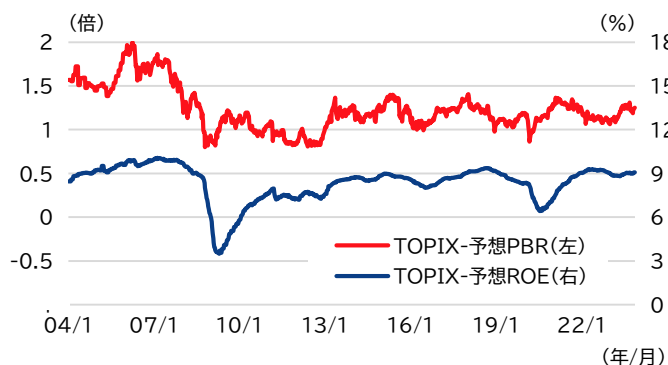
### 2. 2023年相場の教訓

2022年の日本株はほぼボックス圏での推移にとどまりましたが、2023年4月以降に上放れしました。ただ、上放れのタイミングを当てることは簡単ではありません。2023年相場の教訓は「盛り上がっていないときにこそ、日本株を一定程度ポートフォリオに組み入れておくべき」ということだったのではないのでしょうか。

メインプレイヤーが外国人投資家であるためか、日本株には「上昇すれば盛り上がり、下落すれば盛り下がる」という特性があるようです。「戌亥の借金、辰巳で返せ」と言いますが、「日経平均4万円への道」は必ずしも一直線ではないかもしれませんが、それでも過度に盛り上がり、過度に盛り下がらず、割安なときに投資すれば、中期的に報われると考えます。

図表1 TOPIX-予想PBR、予想ROEの推移

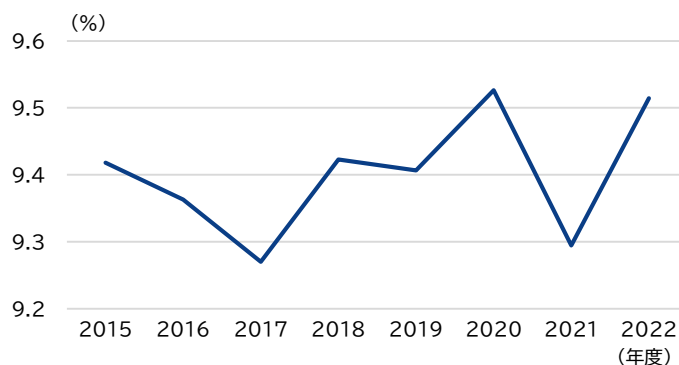
(期間 2004年1月16日～2023年12月1日、週次)



※予想PBR、予想ROEは12ヵ月先予想ベース

図表2 ROE目標値の推移(加重平均値)

(期間 2015年度～2022年度、年度)



※6%以下のROE目標は6%、8%以下は7%、10%以下は9%、12%以下は11%、14%以下は13%、16%以下は15%、16%超は16%として、ROE目標値と回答比率から加重平均値を算出

(図表1～2の出所) 生命保険協会、Refinitiv、Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

## 留意事項

### SBI岡三アセットマネジメントについて

商号：SBI岡三アセットマネジメント株式会社

SBI岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

### 投資信託のリスク

- 投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等(外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

### 留意事項

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

### お客様にご負担いただく費用

- お客様が購入時に直接的に負担する費用  
購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.85%（税抜3.5%）
- お客様が換金時に直接的に負担する費用  
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
- お客様が信託財産で間接的に負担する費用  
運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担：純資産総額×実質上限年率2.046%（税抜1.86%）  
※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。  
なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料  
監査費用：純資産総額×上限年率0.0132%（税抜0.012%）  
※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。  
(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

#### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社であるSBI岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。■投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書(交付目論見書)」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに応じた場合は、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

(2023年11月末現在)

#### <本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)